



1 産婦人科の御案内 産婦人科医師 堀 好博	3 産科病棟の展望 産科病棟 山本正子
2 産科病棟棟舎の現状と注進したい ペニシリン耐性肺炎対策 中央総合診療科棟舎 西山春樹	4 医事課の現状 医事課 杉本俊夫 診療のご案内も編集後記

国家公務員共済組合連合会  
**名城病院**  
 名古屋市中区三の丸一丁目3番1号  
 TEL (052) 201-5311(代) 〒460-0001

## 産婦人科の御案内

産婦人科医師 堀 好博

当院にて分娩される方は、世間の少子・少産化の影響にて年々減少傾向にあります。

しかし、助産婦等スタッフは従来と同じ数を確保し、手厚いケアを個々の妊婦様にかけるよう、心掛けています。

分娩まで、外来診療の時間内にて充分にお話し出来ない妊娠中の保健事項や、分娩中の努責方法・呼吸方法等を母親教室において御指導申し上げています。

場所は三の丸会館にて開催しております。ヨガをとり入れた妊婦体操で体をほぐしていただいた後はティータイムとしていただきます。担当の助産婦との懇談と、受講中のお母様同志のお



しゃべりの時間です。

この際、妊娠中の体調の変化や分娩に関するわからない点など遠慮なく助産婦に御質問いただけるような雰囲気となっています。

このような母親教室を通じて助産婦と親密な信頼関係を形成していただきますことは、分娩の際、非常に役立ちます。

当院で分娩される妊婦様が全て安産であるよう、お助けする事を理想としてスタッフ一同努力しています。

無事、分娩が終わりました3日目には(鯛、赤飯、フルーツ等)心ばかりのお祝い膳をご用意しております。

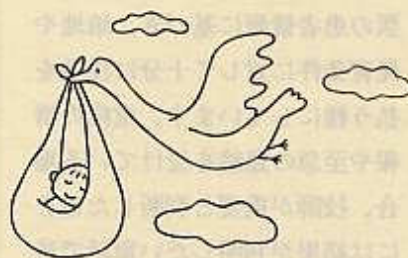
退院の際には、かわいい赤ちゃんの写真を飾るアルバム、哺乳瓶、ミルク等をお持ち帰りいただいております。

「お産は病気でない」とお考えの方も多いようですが、分娩中、突如容態が急変することも希ではありません。

この点、3名の常勤医師や

10名の助産婦をはじめスタッフ一同急変に対処出来るよう日々研鑽をつんでいます。

婦人科においては、腫瘍一般・不妊症・月経異常・更年期障害等のあらゆる症例に対処できるような努めています。



又、高齢化にともなって、子宮脱・性器脱の手術も増化傾向にあり、この手術は開腹をしないので、患者さんの負担が少ないのが特徴です。

更年期症状でお悩みの方には、女性ホルモン補充療法や東洋医学漢方療法等を施行しています。

子宮癌の検診は癌制圧月間にあわせ、10月～11月の2ヵ月間、水曜日午後より施行しています。

新棟完成まで御迷惑をおかけしますが、セカンドオピニオンも含め、お悩み事の御相談に気軽に御来院いただくようお願い申し上げます。

## 当院細菌検査の現状と注意したい ペニシリン耐性肺炎球菌

中央検査部 細菌検査室 西山 泰 暢

近年の細菌検査室の業務は、①病原菌の分離同定・感受性検査、②感染症の予防および否定のための常在細菌や特定の細菌の検査、③培養によらない抗原の迅速検出検査などが、あげられます。

当院細菌室の①の業務に対する心構えは、臨床に少しでも早く役に立つように病原菌を分離培養することです。検査依頼伝票の患者情報に基づき、培地や発育条件に対して十分に注意を払う様になっています。重症の情報や至急の連絡を受けている場合、技師が重要と判断したときには結果が判明しだい電話で連絡しています。また通常の間接報告は材料提出の翌日には行な

い、同定・感受性検査を迅速に報告するように心がけています。

②については手術のための薬剤耐性ブドウ球菌の保菌調査、B群溶血性レンサ球菌による母児垂直感染症予防のための妊産婦の保菌調査などを実施しています。

③検査は30分以内に報告が可能であり、細菌関係では髄液の肺炎球菌・髄膜炎菌・ヘモフィルス、各種材料からのA群およびB群溶血性レンサ球菌の迅速検査が可能です。真菌では、血中カンディダ抗原、ウイルス検査はアデノ（便・咽頭）、ロタ（便）、ヘルペス（水泡など）の検査を行っています。

現在、抗生物質の効きにくいペニシリン高度耐性肺炎球菌（PRSP）・ペニシリン中等度耐性肺炎球菌（PISP）の増加が話題になっています。そこで当院で検出される肺炎球菌の状況を調べてみました。

肺炎球菌は強毒性の菌の一種ですが、採取された材料中では速やかに死滅するため菌をつかまえて正しく抗生物質の効果を判定するには、技術と特別な配慮を要します。

下記の表に当院の各種材料からの肺炎球菌の検出率とPI・PRSPの率について示しました。

肺炎球菌の検出率は、特に小児で高いことがわかります。またその中でPI・PRSPの占める率が55-97%にも上がることがわかります。

このように肺炎球菌は当院でも頻繁に検出され、年々抗生物質に耐性を持つようになってきており、注意を喚起しております。

検査材料	小児鼻汁 (急性)	大人鼻汁 (慢性)	小児咽頭ぬぐい液	喀痰
肺炎球菌検出率	63.3%	10.7%	24.2%	20.9%

肺炎球菌の耐性	検査材料	小児鼻汁 (急性)	大人鼻汁 (慢性)	小児咽頭ぬぐい液	喀痰
ペニシリン感受性肺炎球菌 PSSPの率		35.5%	20.0%	2.8%	44.9%
ペニシリン中等度耐性肺炎球菌 PISPの率		29.0%	40.0%	19.4%	55.1%
ペニシリン耐性肺炎球菌 PRSPの率		35.5%	40.0%	77.8%	

## 6 階病棟の展望

6階病棟 山本正子

季節の変化によりさまざまな景観を呈する観光名所・名古屋城の南に名城病院は位置しています。

そんなすばらしい風景を居ながらにして楽しめるのも当病棟ならではのです。春は桜、夏はエメラルドグリーンと小鳥のさえずり、秋ともなると木の葉は緑から次第に黄色へと変わっていき、いつの間にか冬です。

今はちょうど新病院の建築中となっておりますので、駐車場不足や騒音等で患者様やご家族の皆様には多大なるご迷惑をおかけしています。

6階病棟は内科病棟ではありますが、単独の科とはいえ消化器・呼吸器・腎透析・血液科に専門分野化されています。さらにそれぞれの分野ではますます現代医学が取り入れられ専門性が増しており、ある面では混合病棟と言えるでしょう。

消化器科は、消化管の検査入院等および肝臓疾患を対象とする2つのグループに分かれています。



呼吸器科は喘息・肺気腫・肺癌等の疾患を対象としていますが、在宅酸素療法の教育入院もあります。腎透析および血液科は腎不全・糖尿病・血液疾患の方が多く入院されています。

このように疾患は多岐にわたっていますのでそれぞれに適した看護が必要となります。さらに、消化管出血・喘息発作・呼吸不全の緊急入院等もありますので、看護婦もより専門化する必要があるかと考えます。

6階では、病床数70床に対し看護スタッフ28名（夜勤看護婦3名）で業務をおこなっていますが、1998年5月より、看護体制を固定チーム継続受け持ち制といたしました。

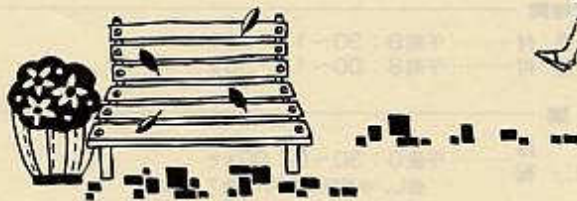
チームは消化器科、呼吸器科及び腎透析・血液科の2チームに分けて、各チームを1年間固定とする事で、少しでも専門性に近づくことができ、患者様の把握がより容易になったと思います。

また全体の患者様への対応も必要になりますので、情報交換・カンファレンスを行い、個々の患者様に即した計画を立案し、きめ細やかな看護ができるようスタッフ一同奮闘しております。

糖尿病に関しては医師・保健婦・看護婦・栄養士らで作成したパンフレットを使用しておりましたが、年齢の高齢化に伴い、指導経過表等現場に沿った解りやすい独自のものに変更しました。今後も引き続き解りやすく、また継続して療養に役立つパンフレットを検討していきます。

当病棟では70才以上の入院患者様が、全体の3分の2を占めます。

人生経験の豊かな患者様の意思を尊重しながら「より誠実な対応」「速やかな対応」「思いやり」をもって看護させていただきます。そして患者様には「満足して頂ける」看護、ご家族様には「安心して頂ける」質の高い看護を提供していただけるよう、スタッフ一同が日々研鑽し努力して行きたいと思っております。



## 医事課の現状

医事課 杉木 俊夫

名城病院にご来院された患者様が、必ず初めとお帰りの際に立ち寄っていただくところが医事課と称するところです。

1日約1,000名の方々においていただき、受付業務と会計業務をおこなっております。ほかに診療録（カルテ）、X線フィルム等の保管、管理、更には健康診断に関すること、受診相談、保険請求、各種統計等多岐にわたる業務を26名の課員で行っております。

最近では各種福祉関係の制度の充実により、内容が順次変更され、それらが各健康保険と相まって複雑となってきております。

支払基金、国保連合会それぞれ

に対して保険請求する期日は決められており、その限られた期間に1ヶ月間の入院・外来の請求書を作成するわけですから、この間は非常に忙しさとなっております。

しかし、そのような状況のなかにおいても常に「迅速で正確な対応」が求められており、それに応えるためにもコンピューター化をはかり、又業務の円滑化をねらいとする連絡会議を設け、そして正確な保険請求を行うために各科との連絡を密に行っているところでもあります。さらに病棟に職員を派遣し現場職員との意思の疎通を図る等、業務の改善をすすめているところでもあります。



70才以上の方の老人医療・3才児までの乳児医療、将来的に社会に復帰できる手術（心臓・側弯症等）を受けられる人の為の育成医療、その他障害者医療等、各種の医療制度がございます。ご遠慮なく医事課職員にご相談ください。

このように、今後とも現場の実際を理解し、より実態に即した処理を行っていき、信頼される医事課となれるよう課員一同前向きに取り組んでおりますので、よろしくお願い申し上げます。

## 名城病院診療等のご案内

### ■ 診療科目

内科・循環器科・小児科（小児循環器科）・外科  
整形外科・形成外科・脳神経外科・心血管外科・皮膚科  
泌尿器科・産婦人科・眼科・耳鼻咽喉科・歯科口腔外科  
精神科・神経内科

※午後の診療等、詳しくは  
医事課 [(052)201-5311 内線232] にお問い合わせ下さい。

### ■ 診察受付時間

新患受付……………午前8：30～11：30まで  
再来受付……………午前8：00～11：30まで

### ■ 面会時間

平日……………午後0：30～8：00まで  
土・日・祝……………午後7：00まで  
但し、小児科病棟は、午後7：00まで  
ベビーは、午後1：00～2：00まで  
午後4：00～5：00まで  
午後7：00～8：00まで

### ■ 診療案内

休診日……………土曜日・日曜日・祝日  
年末年始(12月29日～1月3日)  
創立記念日(11月6日)

## 編集後記

本紙の愛称が「わ」に決まり、2号より用いていますが、先回にご紹介したように「わ」・「和」・「輪」を順次使用することになりますが、今回の「和」は人の和、平和の和にもとれるように多くの人に親しまれ、愛される広報紙にしたいと思っています。

第3号では、産後ベビーとの新しいふれあいから、検査・医事課・病棟へと色々なふれあいを紹介させていただきました。

「和」を面白く空想して御一読いただければ、編集委員一同の幸いと考えます。

お忙しい中、原稿の締切りに合わせお書きいただいた執筆者には、心よりお礼を申し上げますと共に、名城病院だより「わ」が育っていきけるようご協力お願い申し上げます。

(文責 松永 廣次)